

# 平成 29 年度年度末評価



## 広島県立黒瀬高等学校

### 目次

- 1 平成 29 年度自己評価シート（年度末評価）様式 5・・・1 頁
- 2 平成 29 年度自己評価シート（年度末評価まとめ）様式 6・5 頁
- 3 平成 29 年度学校関係者評価シート（年度末評価）様式 8・8 頁

## 平成29年度自己評価シート(年度末評価)まとめ

校番	044	学校名	黒瀬高等学校	校長氏名	馬屋原幸孝	全日制	本校
----	-----	-----	--------	------	-------	-----	----

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
1 自律的規範意識を身につけた生徒を育成する							
生徒が自律的規範意識を身につけるように取り組む	(1)年間皆勤人数 100人	68人	100人	72	C	目標値の約7割であった。	生徒指導
	(2)年間退学者数 5人以内	4人	3人	9	C	目標値の3倍となった。	生徒指導

## 【評価結果の分析】

(1)について

昨年度とほぼ同数である。遅刻欠席がゼロでも、授業欠課により皆勤とならなかった生徒が数名いた。

(2)について

6名中4名は福祉科の生徒である。生徒指導部の関連としては、問題行動による退学が1名、入学以来の不登校による退学が1名であった。

## 【今後の改善方策】

(1)について

授業欠課で皆勤がなくなることを生徒に周知させる。精勤(例:欠席3日まで)などを設け、皆勤を逃した生徒にも表彰される機会を増やす。

(2)について

転学者も含めて減少させたいので、より丁寧な組織的な対応を取っていく。

2 主体的な学習により、自己を開発し、希望進路を実現する生徒を育成する							
生徒の基礎学力を向上させる	(1)広島県高等学校等学力調査3教科正答率70%以上の生徒の割合	1年 国22% 数36% 英11%	1年 国35% 数44% 英20%	1年 国31% 数15% 英8%	C	2年生の数学は、1年生のときの数値を超え、さらに目標値も超えたが、それ以外は目標値まで届かなかった。2年生の国語は、昨年度1年生のときの数値を維持できた。	教務部
	(2)平日家庭学習時間の向上	1年1.6h 2年2.5h 3年1.7h	1年2h 2年2h 3年2h	1年1.8h 2年2.4h 3年1.9h	B	目標値を上回ったのは2学年のみであったが、他学年も概ね目標値に近く、取組みに対する成果があった。	教務部・ 進路指導部・ 学年
進路希望を実現させる	(3)1年生3級以上資格取得者割合 2年生3級以上資格取得者割合 3年生3級以上資格取得者割合	1年26% 2年70% 3年88%	1年75% 2年75% 3年80%	1年15% 2年57% 3年81%	B	1年生への取組みが不十分だった。3年生については、目標を達成した。	進路指導部
福祉科生徒の介護職員初任者研修を確実に履修させ、進路希望を実現させる。	(4)3年生全員の介護職員初任者研修修了	100%	100%	100%	A	2年時3月に全員合格し研修を終了した。卒業時に全員に修了証授与となる。	福祉科
	(5)総合福祉類型者は2年生で3級3つ以上の資格(サービス接遇3級・調理3級・漢字3級等)取得させる。	100%	85%	100%	A	総合福祉類型の3級資格を3つ以上取得したのは100%(10/10人)であった。	
	(6)介護福祉士類型者の介護福祉士国家試験合格への力をつける	国試対策試験平均正答率71.09%	国試合格100%	国試対策試験平均正答率71.09%	B	国試対策試験の自己採点の平均正答率71.09%であった。(最低60.8%最高82.4%)合格基準は満たしている。	

【評価結果の分析】

(1)について

正答率 70%以上の生徒の割合は2年数学しか目標を達成できなかった。しかし、学校平均通過率(本校の平均値)に着目すると、今年度2年生は、昨年度と比較し、国語は56.2→54.3とわずかに減少したが、数学は56.9→64.9 英語は43.6→47.3と上昇した。3教科トータルで見ると、今年度2年生は昨年度の数値を維持できている。今年度1年生に関しても、学校平均通過率(本校の平均値)を昨年度1年生と比べると、数学は56.9→53.1 英語は43.6→40.2とわずかに減少したが、国語は56.2→63.4と上昇した。3教科とも生徒の苦手とする分野を分析した上で、指導方針を定め、各学年の基礎学力向上を目指し指導を続ける。

(2)について

目標値を上回ったのは2学年のみであったが、他学年も概ね目標値に近く、取組みに対する成果があった。

(3)について

1年生への取組みが不十分だった。学年会、各教科への呼びかけが不十分であった。3年生に関しては、入学試験・入社試験の出願を目前にして取得に励む生徒が多かったため、割合が向上した。

(4)について

介護職員初任者研修は1年生2学期から2年生2学期まで続き、筆記と実技試験に合格しなければならない。このことを生徒・保護者に周知し、学習や練習に取り組ませた。3年生は2年終了時には全員合格し、全員研修を修了した。

(5)について

総合福祉類型選択者は2年生10人で、サービス接遇検定3級は9人、調理検定3級は全員、社会福祉・介護福祉検定3級は全員が合格した。また、ワープロ検定3級は6人・準2級2人・2級1人が合格している。3級以上の資格を3つ以上取得を10人全員(100%)が達成した。

(6)について

介護福祉士国家試験の合格基準は総得点の60%程度以上、10科目すべてに得点があることである。介護福祉士国家試験模試や7限目の国家試験対策等の取組を行った。3月末に合格発表が行われる。自己採点では、全員が合格基準の60%程度を達成している。

【今後の改善方策】

(1)について

来年度から広島県高等学校学力調査が中止となるため、生徒の学力を測る新しい判定基準を設定する必要がある。その新しい常に判定基準を意識し、国語・数学・英語の基礎学力を向上させるよう、ねばり強く指導を続ける。

(2)について

個々の目標設定等をおとして家庭学習の定着を促していく必要がある。今後は、各教科と協力して家庭学習の中身の深化へ向けて、週末課題や小テスト等の取組を充実させる。特に、学習習慣が定着していない生徒に対して、少しずつでも家庭で学習させるように指導する。

(3)について

検定取得に向けて努力することが進路実現に有利であったり、教科の学習に生きてきたりするなどの意義を伝え、教科指導で積極的に受検を促していく。1学年から、計画的に受検するよう、学年会、担任、各教科と連携を深める。無級の生徒の割合を減らす取組が必要である。特に、2年生の就職希望者のうち、現在無級の生徒の意識向上に取組む。

(4)について

介護職員初任者研修の筆記と実技試験を合格するよう継続して指導する。このことを生徒・保護者に周知する。

(5)について

総合福祉類型は2年生で、検定等に挑戦するよう指導する。また、3年生でも様々な検定のさらに上級に挑戦させる。

(6)について

介護福祉士国家試験模試(業者)を2回、校内模試も数回行う。7限の国家試験対策を行い、今年度の課題を明確にし、内容の充実を図り、力をつけて受験に臨むよう指導する。

3 「元気な声が聞こえる学校」づくりを推進する							
生徒が部の活動に誇りを持ち、主体的、計画的に部活動を行う。	(1)部活動加入率	90.8%	85%	89.5%	A	1学期から変動がほぼなかった。	特別活動部
	(2)部活動単位で挨拶運動や美化作業をおこなう日数を増やす。	挨拶 68 美化 15	挨拶 70 美化 15	挨拶 65 美化 13	A	年度末に向けて、目標達成できると思われる。	特別活動部
生徒会中心の自主的活動の機会を増やす。	(3)集会や放送により、生徒会執行部が全校生徒に対して話をする機会を増やす。	9回	12回	8回	B	全校集会時は定期的に、また、各行事や状況に応じて講話を行った。	特別活動部
豊田高校との学校間連携に係る教育内容を充実させる。	(4)行事や部活動へ参加した生徒の満足度	100%	98%	98%	A	事後アンケートによる満足度は概ね好評であった。	全教科分掌特別活動部

海外姉妹校との生徒交流を実現する。	(5)手紙等による近況報告を年に1回以上行い、HPにその取組を掲載する。	1回	7回	2回	C	手紙の送付は行ったが、年間を通じて取組みは不十分であった。	特別活動部
-------------------	--------------------------------------	----	----	----	---	-------------------------------	-------

【評価結果の分析】

(1)について

各学期初めに部活動総会により、入退部の確認をすると同時に部活動に対する意識付けを行った。2・3年の加入率の維持と、1年生の1学期全員入部の取組から2学期にかけて退部する生徒が少なく、1月末現在でも90%を超える高い入部率となった。

(2)について

挨拶運動については各部長と執行部が担当日を意識して行い、年度後半においてもスムーズに行うことができた。美化作業について各部の積極的な取組により計画的に実施できた。更に、日常的に草取り等実施している部もあり、自主的活動になりつつある。

(3)について

全校集会を中心に各行事のPRやお礼等を行い、学校の状況に応じて連絡や注意喚起等を行った。集会がない場合も放送を通じて行うことができた。

(4)について

両校の文化祭を互いが訪問することにより、自校の取組を客観的に評価し、他校の内容を参考にしより良い行事にするため執行部内で話し合う姿があった。茶華道部の交流においても、異なる流派の茶道を体験し、自分達の部活動のあり方なども振り返る機会となり、また広い視野を養うことができた。

(5)について

メール送信は2回行ってはいるものの、返信がなく滞っている現状である。来年度はスウェーデンから2名が本校を訪問するとともに、本校からもスウェーデンを訪問する予定である。

【今後の改善策】

(1)について

正式な退部はあまり多くないが、年間を通じてしっかりと活動できるよう生徒のモチベーションが下がらない工夫を図る必要がある。各部で声掛けをしっかりと行い、部長を中心に登録部員全員が積極的に活動していく環境づくりを進めていく必要がある。

(2)について

部としては参加できているものの部員全員が参加しているとは言い難い面もある。顧問との連携や部内の縦のつながりを重視していきたい。

(3)について

生徒会のリーダーとしての意識を高めるよう週1回の執行部会を充実させ、執行部同士のコミュニケーションを密にする。

(4)について

連携行事の前に教員・執行部レベルでの十分な打ち合わせを行い、より生徒に還元できる内容を創造する。

(5)について

今後も積極的な働きかけを続けていく。

4 地域社会に貢献する生徒を育成し、地域に開かれた学校づくりを行う							
広報活動を充実させるとともに、中学生・保護者から選ばれる学校をつくる。	(1) オープンスクール参加生徒で、本校を受検したいと回答した生徒の割合	新規	80%	福祉科 90% 普通科 73%	B	福祉科は目標値を上回ったが、普通科はやや下回った。全体では78%であった。	総務部 福祉科
	(2)校内の行事の様子や生徒の声をホームページに掲載する	20回	20回	27回	A	行事の様子や学校便りをホームページに27回掲載した。(1月末)	総務部
	(3)ホームページの閲覧者数	年間 20,000	年間 15,000	22,000	A	2月中旬までに20000回以上の閲覧があった。	
地域に貢献するボランティア活動を充実させる。	(4)普通科生徒のボランティア活動参加者を増やす。	延べ 70人	延べ 100人	延べ 45人	C	目標を大きく下回った。	特別活動部

		(5)福祉科の学習でのボランティアや地域活動貢献回数と参加者数	延べ 135人	延べ140 人以上	延べ 119人	C	社会福祉協議会と連携をして福祉科として毎年参加し生徒の行動・態度を評価している。ボランティア参加は、15回、延べ119人であった。生徒総数が52人と少なく、平均2.3回参加していることとなる。	福祉科
--	--	---------------------------------	------------	--------------	------------	---	--	-----

#### 【評価結果の分析】

##### (1)について

昨年までは受検倍率を評価指標においていたが、生徒数は、毎年増減があるので指標としてふさわしくないと考え、オープンスクールに参加した結果本校を受検したいと回答した生徒の割合を指標とした。結果、福祉科に参加した生徒31名のうち90%が受検したいと回答し、普通科に参加した75名のうち73%が受検したいと回答し、全体では78%であった。福祉科に参加した中学生は、科の専門性からしても参加を表明した段階で、かなり強い希望を持っているものと思われる。そうした中学生がオープンスクールでさまざまな体験をした結果、90%の回答を得たということは良かったのではないかと考える。普通科については他校と比較しつつ参加していることが予想され、一律に80%という目標を設定することは適当ではないと考える。

##### (2)について

行事の様子20回と学校便り7回をホームページに掲載した。また、日々の学校の様子を毎日更新している。

##### (3)について

日々の閲覧数は50～80程度で、4月から現在までに20,000回以上の閲覧があった。

##### (4)について

「黒高レンジャー」が「ボランティア同好会」として3年目を迎え、地域レンジャーは、徐々に周知されてきている。しかしながら参加人数は昨年度より減少している。昨年はインターハイなどで多くの生徒がボランティア活動を行ったこと、月1回定期的に募集があったボランティアがなくなったことが、延べ数が伸びなかった原因であると考えられる。

##### (5)について

福祉科として毎年社会福祉協議会と連携をしているボランティア活動に参加している。介護福祉士類型の生徒は介護実習の単位が多いため参加しにくい状況がある。総合福祉類型の生徒には積極的に声かけし参加を促している。ボランティア参加は、15回、延べ119人であった。生徒総数が52人と少なく、ひとり平均2.3回参加していることとなる。

#### 【今後の改善方策】

##### (1)について

来年度もこの評価指標を継続する。ただし、来年度は目標値を一律に80%とするのではなく、福祉科90%、普通科70%に設定する。もちろん本校を受検したいという要素はオープンスクールだけにあるのではなく、それに至る様々な広報活動に力を入れていかなければならない。学校案内の冊子の内容や中学校訪問の時期、連携のあり方等検討を行いたい。特に福祉科は、県内唯一の科であることや類型別課程のこと、広島国際大学との連携のこと学生寮のこと等正しく理解して頂くようPRする必要がある。

##### (2)について

今後とも校内の様子や行事、部活動の様子等タイムリーに掲載し、本校の良さをPRしていく。特に中学生やその保護者のことを念頭に置き、知りたいであろうと思われる情報を掲載できるよう、各分掌・学年会と連携を図り、内容を充実させていく。

##### (3)について

ホームページの閲覧者は様々であることが想像されるが、いずれにしても本校生徒や保護者等の関係者が本校に誇りを持ち、地域に対して間接的に学校をPRしていくということには変わらない。またホームページへの関心度も本校関係者を中心に高いものがある。例えば、修学旅行中の閲覧者が急増したことをもってしても、ホームページの役割は大きいものとする。今後もホームページを通して生徒の自己肯定感を高める内容の掲載を計画する。

##### (4)について

個別に生徒への声かけを積極的に行い、誰でも気軽に参加しやすい体制を作るよう取り組む。また参加生徒への肯定的な言葉かけを継続し、自主的に再参加するような環境をつくる。

##### (5)について

これからも、社会福祉協議会と連携し、黒瀬町健康福祉まつり、ありんこ祭り、みんなの音楽祭、障害者(児)クリスマス交流会のボランティア活動に福祉科全体で参加することとする。その他案内があるものを中心に、黒高レンジャー活動と連携し進めていく。

福祉科生徒が減少しているため、目標値を今後検討する必要がある。(参加割合など)

## 平成29年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	044	学校名	広島県立黒瀬高等学校	校長氏名	馬屋原幸孝	全日制	本校
----	-----	-----	------------	------	-------	-----	----

## 1 評価結果の分析

## (1) 成果

## ア 自律的規範意識を身につけた生徒を育成する

年間皆勤人数は昨年度とほぼ同数である。遅刻欠席がゼロでも、授業欠課により皆勤とならなかった生徒が数名いた。

年間退学者は6名いた。6名中4名は福祉科の生徒である。生徒指導部の関連としては、問題行動による退学が1名、入学以来の不登校による退学が1名であった。

## イ 主体的な学習により、自己を開発し、希望進路を実現する生徒を育成する

学校平均通過率(本校の平均値)に着目すると、今年度2年生は、昨年度と比較し、国語は56.2→54.3とわずかに減少したが、数学は56.9→64.9英語は43.6→47.3と上昇した。3教科トータルで見ると、今年度2年生は昨年度の数値を維持できている。今年度1年生に関しても、学校平均通過率(本校の平均値)を昨年度1年生と比べると、数学は56.9→53.1英語は43.6→40.2とわずかに減少したが、国語は56.2→63.4と上昇した。

2学年の平日家庭学習時間が目標値を上回った。他学年も概ね目標値に近い。取組に対する成果があった。

3級以上資格取得者割合については、3年生は、入学試験・入社試験の出願を目前にして取得に励む生徒が多かったため、割合が向上した。

介護職員初任者研修は1年次の2学期から2年生2学期まで続き、筆記と実技試験に合格しなければならない。このことを生徒・保護者に周知し、学習や練習に取り組ませた。3年生は2年終了時には全員合格し、全員研修を修了した。

総合福祉類型選択者は2年生10人で、サービス接遇検定3級は9人、調理検定3級は全員、社会福祉・介護福祉検定3級は全員が合格した。また、ワープロ検定3級は6人・準2級2人・2級1人が合格している。「3級以上の資格を3つ以上取得」については10人全員(100%)が達成した。

## ウ 「元気な声が聞こえる学校」づくりを推進する

各学期初めに部活動総会により、入退部の確認をすると同時に部活動に対する意識付けを行った。2・3年の加入率の維持と、1年生の1学期全員入部の取組から2学期にかけて退部する生徒が少なく、1月末現在でも90%を超える高い入部率となった。

挨拶運動については各部長と執行部が担当日を意識して行い、年度後半においてもスムーズに行うことができた。美化作業について各部の積極的な取組により計画的に実施できた。更に、日常的に草取り等実施している部もあり、自主的活動になりつつある。

全校集会を中心に各行事のPRやお礼等を行い、学校の状況に応じて連絡や注意喚起等を行った。集会がない場合も放送を通じて行うことができた。

豊田高校との学校間連携については、両校の文化祭を互いが訪問することにより、自校の取組を客観的に評価し、他校の内容を参考にしより良い行事にするため執行部内で話し合う姿があった。茶華道部の交流においても、異なる流派の茶道を体験し、自分達の部活動のあり方なども振り返る機会となり、また広い視野を養うことができた。

海外姉妹校との生徒交流については、メール送信は2回行ってはいるものの、返信がなく滞っている現状である。来年度はスウェーデンから2名が本校を訪問するとともに、本校からもスウェーデンを訪問する予定である。

## エ 地域社会に貢献する生徒を育成し、地域に開かれた学校づくりを行う

オープンスクールについて、昨年までは受検倍率を評価指標においていたが、生徒数は、毎年増減があるので指標としてふさわしくないと考え、オープンスクールに参加した結果本校を受検したいと回答した生徒の割合を指標とした。結果、福祉科に参加した生徒31名のうち90%が受検したいと回答し、普通科に参加した75名のうち73%が受検したいと回答し、全体では78%であった。福祉科に参加した中学生は、科の専門性からしても参加を表明した段階で、かなり強い希望を持っているものと思われる。そうした中学生がオープンスクールでさまざまな体験をした結果、90%の回答を得たということは良かったのではないかと考える。

ホームページは、行事の様子20回と学校便り7回を掲載した。また、日々の学校の様子を毎日更新しており、日々の閲覧数は50~80程度で、4月から現在までに20,000回以上の閲覧があった。

「黒高レンジャー」が「ボランティア同好会」として3年目を迎え、地域レンジャーは、徐々に周知されてきている。

## (2) 課題

## ア 自律的規範意識を身につけた生徒を育成する

## イ 主体的な学習により、自己を開発し、希望進路を実現する生徒を育成する

広島県高等学校等学力調査正答率70%以上の生徒の割合は2年の数学しか目標を達成できなかった。広島県高等学校等学力調査3教科とも生徒の苦手とする分野を分析した上で、指導方針を定め、各学年の基礎学力向上を目指し指導を続ける。

3級以上資格取得者割合については、1年生への取組みが不十分だった。学年会、各教科への呼びかけが不十分であった。

介護福祉士国家試験の合格基準は総得点の60%程度以上、10科目すべてに得点があることである。介護福祉士国家試験模試や

7限目の国家試験対策等の取組を行ったが1名不合格者があった。

ウ 「元気な声が聞こえる学校」づくりを推進する

「集会や放送により、生徒会執行部が全校生徒に対して話をする機会を増やす」について、目標回数に達していない。

エ 地域社会に貢献する生徒を育成し、地域に開かれた学校づくりを行う

オープンスクールについて、普通科は73%であった。他校と比較しつつ参加していることが予想され、一律に80%という目標を設定することは適当ではないと考える。

「黒高レンジャー」の参加人数は昨年度より減少している。昨年はインターハイなどで多くの生徒がボランティア活動を行ったこと、月1回定期的に募集があったボランティアがなくなったことが、延べ数が伸びなかった原因であると考えられる。

地域に貢献する介護福祉士類型の生徒は介護実習の単位が多いため参加しにくい状況がある。総合福祉類型の生徒には積極的に声かけし参加を促している。ボランティア参加は、15回、延べ119人であった。生徒総数が52人と少なく、ひとり平均2.3回参加していることとなる。

## 2 今後の改善方策

### (1) 自律的規範意識を身につけた生徒を育成する

年間皆勤人数については、授業欠課も皆勤ではなくなることを生徒に周知する。精勤（例：欠席3日まで）などを設け、皆勤を逃した生徒にも表彰される機会を増やす。

年間退学者数については、転学者も含めて減少させたいので、より丁寧な組織的な対応を取っていく。

### (2) 主体的な学習により、自己を開発し、希望進路を実現する生徒を育成する

来年度から広島県高等学校学力調査が中止となるため、生徒の学力を測る新しい判定基準を設定する必要がある。その新しい常に判定基準を意識し、国語・数学・英語の基礎学力を向上させるよう、ねばり強く指導を続ける。

家庭学習時間の向上については、個々の目標設定等とおして家庭学習の定着を促していく必要がある。今後は、各教科と協力して家庭学習の中身の深化へ向けて、週末課題や小テスト等の取組を充実させる。特に、学習習慣が定着していない生徒に対して、少しずつでも家庭で学習させるように指導する。

検定取得に向けて努力することが進路実現に有利であったり、教科の学習に生きてきたりするなどの意義を伝え、教科指導で積極的に受検を促していく。1学年から、計画的に受検するよう、学年会、担任、各教科と連携を深める。無級の生徒の割合を減らす取組が必要である。特に、2年生の就職希望者のうち、現在無級の生徒の意識向上に取組む。

介護職員初任者研修の筆記と実技試験を合格するよう継続して指導する。このことを生徒・保護者に周知する。

総合福祉類型は2年生で、検定等に挑戦するよう指導する。また、3年生でも様々な検定のさらに上級に挑戦させる。

介護福祉士国家試験模試(業者)を2回、校内模試も数回行う。7限の国家試験対策を行い、今年度の課題を明確にし、内容の充実を図り、力をつけて受験に臨むよう指導する。

### (3) 「元気な声が聞こえる学校」づくりを推進する

部活動加入率については、正式な退部はあまり多くないが、年間を通じてしっかりと活動できるよう生徒のモチベーションが下がらない工夫を図る必要がある。各部で声掛けをしっかりと行い、部長を中心に登録部員全員が積極的に活動していく環境づくりを進めていく。

挨拶運動について、部としては参加できているものの部員全員が参加しているとは言い難い面もある。顧問との連携や部内の縦のつながりを重視していきたい。

生徒会のリーダーとしての意識を高めるよう週1回の執行部会を充実させ、執行部同士のコミュニケーションを密にする。

連携行事の前に教員・執行部レベルでの十分な打ち合わせを行い、より生徒に還元できる内容を創造する。今後も積極的な働きかけを続けていく。

### (4) 地域社会に貢献する生徒を育成し、地域に開かれた学校づくりを行う

来年度もこの評価指標を継続する。ただし、来年度は目標値を一律に80%とするのではなく、福祉科90%、普通科70%に設定する。もちろん本校を受検したいという要素はオープンスクールだけにあるのではなく、それに至る様々な広報活動に力を入れていかなければならない。学校案内の冊子の内容や中学校訪問の時期、連携のあり方等検討を行いたい。特に福祉科は、県内唯一の科であることや類型別課程のこと、広島国際大学との連携のこと学生寮のこと等正しく理解して頂くようPRする必要がある。

今後とも校内の様子や行事、部活動の様子等タイムリーに掲載し、本校の良さをPRしていく。特に中学生やその保護者のことを念頭に置き、知りたいであろうと思われる情報を掲載できるよう、各分掌・学年会と連携を図り、内容を充実させていく。

ホームページの閲覧者は様々であることが想像されるが、いずれにしても本校生徒や保護者等の関係者が本校に誇りを持ち、地域に対して間接的に学校をPRしていくということには変わりない。またホームページへの関心度も本校関係者を中心に高いものがある。例えば、修学旅行中の閲覧者が急増したことをもってしても、ホームページの役割は大きいものとする。今後もホームページを通して生徒の自己肯定感を高める内容の掲載を計画する。

個別に生徒への声かけを積極的に行い、誰でも気軽に参加しやすい体制を作るよう取り組む。また参加生徒への肯定的な言葉かけを継続し、自主的に再参加するような環境をつくる。

これからも、社会福祉協議会と連携し、黒瀬町健康福祉まつり、ありんこ祭り、みんなの音楽祭、障害者(児)クリスマス交流会のボラ

ンティア活動に福祉科全体で参加することとする。その他案内があるものを中心に、黒高レンジャー活動と連携し進めていく。

福祉科生徒が減少しているため、目標値を今後検討する必要がある。(参加割合など)

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策（学校関係者評価実施後に記入する。）

- (1) 退学者数については、生徒指導上の課題とは言い切れないため、見直す。
- (2) 年間皆勤人数は、年間皆勤者率とする。
- (3) 学力調査3教科正答率は、学力調査が実施されないため、違う指標とし、年度内の比較を行う。
- (4) 姉妹校との交流については、相互のメール更新等では、相手側の返信不通で低評価となっていることから、満足度評価とする。
- (5) 創立70周年記念行事に向けて、生徒が主体的に活動し、自己肯定感を高められるよう工夫する。



平成29年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成 30 年 3 月 14 日

校番	44	学校名	広島県立黒瀬高等学校	校長氏名	馬屋原幸孝	全	本校
----	----	-----	------------	------	-------	---	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力調査の正答率の目標値は、高等学校入学試験の正答率より、生徒実態に応じた目標値に設定しても良いのではないと思う。</li> <li>○中学校ではオープンスクールに多数校行くよう指導している。受検したいという項目を、学校に魅力を感じる等、オープンスクールの内容を評価する項目も考えてみてはどうか。</li> <li>○来年度目標設定等を改正するにあたり、2/23 開催の合同会議での提案(下記のとおり)を指示します。</li> <li>○各項目に対する評価指標は適切である。</li> <li>○皆勤人数の目標値を下げてもいいと思う。</li> <li>○自立的規範意識を身に付けるための目標が厳しすぎて、一度皆勤が駄目になると意識が低下する生徒もいると思う。そこは、一度二度の失敗は誰だってあることを教育し指導していくためにも、緩やかにしたほうが良い。</li> </ul>
目標の達成状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標設定等に準じた評価は適切に解析されています。</li> <li>○「地域に貢献するボランティア活動で普通科生徒参加者を増やす」とあるが、まずは、ボランティア精神を養ってほしいと思う。人数は少ないが、これからだと思います。</li> <li>○海外姉妹校との交流は、相手がいて状況も違うことから、達成状況の評価を図るには難しいと思う。行き来があったか、それに対して事前学習をした、事後学習をしたなどで理解を深めた回数でよいと思う。</li> </ul>
目標達成に向けた取組の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校へは取組の内容が伝わりにくいと思う。同じ町内の学校として、交流ができれば学校の様子が中学生にも伝わると思う。</li> <li>○家庭学習がどのように学力向上につながったかが見えない。特に3年生の時間数が少ない原因が不明。</li> <li>○「生徒の基礎学力を向上させる」について、2・3年生は、各自目標や進路が定まり、学力を上げればよいが、1年生は春に入学しててで浮足立っている。中学校生活の延長気分を高校生になったという自覚をもたせ、学習に励んでほしいと思う。</li> <li>○平成 29 年度黒瀬高等学校評価アンケートからも取組に関しては着実に地域、保護者、子どもたちに周知されてきていると思う。</li> </ul>
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各分野別の分析は、適切に行われていますが、上述の家庭学習時間数については、少し疑問点がある。</li> <li>○HP 閲覧者数が月ごとにどれくらいの数があり、何に対して興味をもって閲覧されたか分析し、それに対してどの時期に更新すればもっとも評価が高いかが確認できればよいと思う。</li> </ul>
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交流の一つとして、部活動での練習試合などでできれば、中学生が高校をイメージできる機会となると思う。教職員も、学校の様子が分かり、進路指導に役立つと思う。</li> <li>○黒瀬高校の PR 効果は、HP、学校便りのほかボランティア活動などの地域貢献度で一定の成果があり、黒瀬町の財産となっています。</li> <li>○毎年、福祉科への入学者数が低迷しているのが気になる。超高齢化社会を迎えるにあたり人材不足が表面化しているが、介護資格は自分が健康でやる気があれば定年がない。福祉科生徒がんばれ!</li> <li>○黒高レンジャーの登録部員全員が積極的に活動していく環境づくりを進めていく必要がある。</li> <li>○広報活動をすることが、生徒の自発性にもつながると思われる。</li> <li>○年々黒瀬高等学校が良くなっていることから、改善はうまくされていると思う。</li> </ul>
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標値等の達成は必要なことだが、過剰な目標値とならないよう配慮してほしい。特に数値目標では、目標を達成しなかった場合は、前年踏襲を踏まえて目標値を下げることも必要かと思う。</li> <li>○各担当の先生は、半期単位での評価など年度内での PDCA に心がけてほしい。</li> <li>○黒瀬中学校からは 30 名の生徒が、黒瀬高校に進学する予定である。よろしくお祈りします。</li> <li>○学校全体が向上していると思う。生徒自身と先生方の努力が実ってきていると思う。</li> <li>○子どもたちが何故黒瀬高等学校を選ぶのか、学力定着への取組、部活動の活気、地域貢献など、魅力の発信を常に続けていき、どこかで聞いて、見て、確かめて、黒瀬高等学校に興味をもってくれたらと思う。</li> </ul>